日韓アジア基金　ニュースレター

カンボジアの子どもたちに教科書を

２０１８年４月　No.64

これまでの活動の成果の振り返り 第２回

代表理事　江本哲也

日韓アジア基金も皆様の温かいご支援のおかげをもちまして、発足以来、今年で 17 年となりました。ここで、この間の活動の成果を振り返り今後の会の発展の糧としたいと思います。今後ともご支援よろしくお願いします。

～目　次～

これまでの活動	1～2
カンボジア便り	3～5
ボランティアさんの感想	6
平成２９年度決算について	7
事務・会計報告	8

１．　2,007年6月「ビビンの会」発足

梅雨入り間近の6 月9 日、「第1 回ビビンの会~ともだち作ろう~」を、アジア文化会館の教室で開催しました。「ビビンの会」は日韓交流の促進を目ざし、日韓アジア基金の新しい活動としてはじめたものです。副題が「ともだち作ろう」となっているように、国籍や年齢、職業などに関係なく、たがいに友だちになることによって、おたがいの国や文化を尊重し、信頼関係を築きたいという願いがこの会には込められています。「友だちに国境は存在しない」というのが「ビビンの会」の原点であり、また目指すところでもあります。

２． 2008 年 10 月 1 日 幼稚園が開園できました。

3 月末に工事が始まった幼稚園の建物が完成し、10 月1 日の新学期に合わせて、村の人たちによる開園式が午前9 時から行われました。当日は晴天で幼稚園の建物の前にテントが張られ、隣のルセイサン小学校の生徒と一部の幼稚園生ら約100 名と父母約50 人が集まりました。

写真右端が筆者江本

来賓は小学校の校長先生、地方行政区の長、村のお寺の住職、父母代表、日本からは代表理事の江本、カンボジアからは代表者リテイさんで、それぞれ祝辞を述べました。カンボジアは大変暑く当日も午前中にも関わらず、35 度から40 度はあったのではないかと思います。式は1 時間半ぐらいでしたが下着まで汗でびっしょりでした。

小学校の校長先生の挨拶「 日韓アジア基金からは、これまでわれわれの小学校に窓と扉、図書館、運動施設、および教科書など多くの支援を頂いてきた。この度これらに加えて幼稚園を建設して頂き感謝に堪えない。
本日はまた、日本の代表がわざわざ来て下さりありがとうございました。ご支援くださった支援者の皆さんによろしくお伝えください。」

お寺の住職「 私の若いころは幼稚園に行きたくても幼稚園はなく、とても残念でした。皆さんはこんなに立派な幼稚園ができたのですから幸せです。どんどん子どもを幼稚園に連れてきて、空いた時間はそれぞれの仕事に励んで下さい。」
幼稚園の工事金額は総額２１，２９２ドル（２４０万円となりました。（次号につづく）

カンボジア便り

丸山芳彦

今回のニュースレターでは、現在NFECの先生をしておられる女性の先生と、最近リティさんが気になっている一人の生徒の話題を取り上げます。

1. サンバス先生　Ms.Phal Sambath

サンバス先生は、2003年に当会がプノンペン郊外アンコンロン村に最初に開設した識字学校『アジア未来学校』（詳しくは、ニュースレター63号をご覧ください）に参加した最初の先生の一人です。　2003年当時は子供達はみな貧しくて勉強があまり進まない状態でしたが、サンバス先生は子供達が勉強に興味を持つように一生懸命に教えつづけました。その結果、数百人の子供達を公立の小学校に入学させることができました。『アジア未来学校』は当会とカンボジア教育局の共同事業でしたが、2008年に目的を達成したとの判断で、当会はこの事業から撤退しました。

その後、当会は2011年から、非正規識字学校『NFEC』の運営に参加しました。2015年3月から、サンバス先生はNFECの先生として再び当会を支援して下さっています。

サンバス先生は、1989年からワットハー（Wathar）公立小学校の先生をされています。ワットハー公立小学校は、日韓アジア基金が教科書を支援している１０校の１校です。

公立の小学校は午前中で終わり、彼女は午後にNFECで教えています。NFECは現在、先生は2人のため彼女は1年生から4年生までを同じ教室で教えています。もう1人の先生が、5年生、6年生を同じ教室で教えています。

サンバス先生が担当の1,2,3,4年生合同クラス

（彼の事は、次号以降で紹介しようと思います。）

サンバス先生の夫も先生でしたが、3年前に亡くなりました。彼女の夫は先生として働く傍ら農業（米作）をやって、家計を支えていましたが夫をなくした彼女はこれら全ての事を1人で行うことは時間的にも体力的にもとてもできません。

サンバス先生には、8人の子供がいます。教育熱心な彼女が子供達の世話をしながら子供達全員を大学までの高等教育を受けさせるのは家計的にも体力的にもとても大変なことです。特に未亡人になったばかりのころの彼女は、いつも借金をしていたそうで、その苦労は計り知れないものだったのだろうと推測します。

最近になり子供達は次々に独立し、今は5人の子供は様々な分野で働きはじめています。彼女の日常生活は以前よりは楽になったとは言え、今なお娘の1人は大学医学部生、さらに9歳と10歳の息子がいてまだまだ大変です。

また今は孫の世話や食事作りもされているとの事です。

日韓アジア基金では、NFECの先生の給与を支援していますが、ボランティア先生への謝礼という考えで、月にわずか55ドルの支援でした。彼女の窮状を知って、当会も今年からの謝礼の増額を検討しましたが、65ドルまでが精一杯でした。サンバス先生は、当会の財務状況を理解されており、10ドルの増額をとても感謝して快く先生を続けて頂いています。

蛇足ながら、カンボジアの公立小学校の先生の給与は月に250ドルです。先生の給与は以前から安いことで有名で、多くの先生は農業や他の副業を生計の足しにしています。このような状況では先生方の教育へのモチベーションもなかなか上がらないのではないでしょうか。カンボジア政府にはもっともっと教育に力を入れて欲しいと願っております。

２．サリン君のこと　Sarin Bunsing

サリン君は１２歳です。前述のワットハー公立小学校の5年生です。サリン君には４人の兄弟と１人の妹がいて、彼は次男です。とても貧しい家庭で、家を持っていません。　家族は仕事を探すために様々な場所に移動します。今現在は、祖父母と一緒に暮らしています。両親はゴミ拾いや魚を捕まえたり、米作りの手伝いや建設現場で働いたりして生計をたてています。

サリン君と、インタビュー中のリティさん

サリン君は、午後にNFECに通っていますが、両親や１４歳の兄とゴミ拾いや魚捕りをすることも多く、出席状況はあまりよくありません。　高学年担当のYan先生の話では、お兄さんもNFECに通っていましたが、両親が生活のために彼の助けが必要になり、やむを得ずNFECを辞めた、との事です。

サリン君はワットハー公立小学校へも行かない事がときどきあり、学業成績はよくありません。
時々不良に、ドラッグを買ってくるように強要されることがあるそうですが、逃げていると言っています。
サリン君は、公立小学校の授業に追いつけないのでNFECに通っています。NFECは時間があるときに授業が受けられるからです。また、NFECでは難しい言葉の読み書きが習える、と言っています。

上述のように、サリン君の家庭はとても貧しいのですが、彼は、高校で勉強したいと言っています。

ボランティアさんの感想

ボランティア活動との出会い

社会人　チャン　セレイロット

私が日韓アジア基金の活動を知ったのは、半年前の事でした。両親がカンボジア人という事もあり、会社の方から活動を紹介してもらい、実際にイベントに何度か足を運びました。そしてご縁があり、今回初めてボランティアの一員として活動することになりました。

初めての活動が 1/13 に行われたニュースレター発送でした。地味な活動に見えますが、この活動を多くの方に知ってもらえる機会であり、ボランティアの皆さんと一生懸命作業をしました。当日は、職業・年齢が異なる方が参加していました。初めは心配していましたが、皆さんがボランティアをしている理由や想いを聞くことができ、沢山刺激を受けました。また、このボランティア活動を通して多くの方と仲良くすることができました。

日韓アジア基金で活動している皆さんは、親切でとてもフレンドリーです。アットホームな雰囲気の中で活動するので、1 日があっという間に過ぎました。こちらで活動ができて本当に良かったと思っています。

実は、私は６歳から中学２年生までの８年間、ボランティアを受ける側でした。大学生が自宅まで来て、日本語を教えてくれるボランティアです。

クメール語しかわからなかった私が、国際教室に通わずクラスみんなと一緒に勉強出来たのは、この大学生のボランティアのおかげです。そしてご縁があって、教えてもらっていたこの大学生と同じ大学に入学しました。

そして恩返しがしたいという思いでボランティア活動に専念し、３人のカンボジア人と、ベトナム人に日本語を教えていました。その時に学んだ事は、助け合うことの大切さです。人の役に立ち、感謝の言葉を言われた時は、うれしさと共にやりがいを感じ、もっと人のために何かをしたいと思うようになりました。　勉学は人生の財産になります。子ども達が努力して勉強した分、将来何らかの形になって、彼らの人生にプラスになると信じています。

『貧困を理由に勉学を諦めて欲しくない。』
努力は必ず報われます。私はこれからも母国のカンボジアの為に、積極的にボランティア活動をしようと考えています。

平成 29 年度決算について

会計担当　　斎藤及章

当会の平成 29 年度の決算が理事会及び総会の承認を経て確定しました。詳細は添付の総会資料をご覧頂きたいと思いますが、ここでは紙面をお借りして今回の決算概要と今後の対応について述べたいと思います。

平成 29 年度は経常収益（収入）が 617 千円に対して経常費用（支出）が 924 千円となり、当期ベース▲307 千円の大幅な赤字となりました。この結果、正味財産額は前期末の 688 千円から 381 千円に半減しました。

主な原因は以下の 2 点です。第一は収入すなわち会費、寄付金の減少です。下表の通りここ 3 年間で見ると会費、寄付金共減少傾向にあり、27 年度の経常収益 1,086 千円と比較すると 617 千円という数字は実に 44%の減少となっています。これは高齢化等に伴う会員数の減少が続いていること大口寄付先が減ったためと考えられます。

第二は平成 26 年以降続く円安ドル高傾向とカンボジア経済の成長に伴う物価上昇による支出の増加と高止まりです。円ドル為替相場は平成 23～24 年に 79 円～80 円台という超円高を記録した後、26 年までの 2 年間に急速に円安ドル高が進み 26 年の年間平均レートは 121 円に達しました。現在は 105 円～107 円程度と多少円高方向に振れていますが、カンボジア支援はドルベースで行われるためドル高になるほど支出が嵩むことになり最近の為替水準は当会の財政を直撃しています。また近年の物価上昇により現地での教科書の単価も上昇しています（カンボジアの経済成長率は最近は年 7%前後です）。

当会としては過去にトゥクトゥク支援中止や教科書の支援数削減等の対策を行って財政の健全化を図ってきましたが、このまま行くと今期も教科書の支援数削減やイベントへの不参加等を余儀なくされる懸念があります。理事を中心に開催する定例会議でも毎回議論となっていますが、増収策を模索しているところであります。支援者の皆さまにおかれましても引き続き当会へのご理解ご支援をお願い申し上げますと共に、更なるご支援を頂けますようお願い申し上げます。

収入の推移　　**（千円）**

	27 年度	28 年度	29 年度
会費	250	296	234
寄付金	758	442	348
事業収益	78	37	35
合計	1,086	775	617

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方　（敬称略・順不同）

2018年1月13日ニュースレター63号 発送作業　（15名）
山下貴史・唐川莉乃・早川雅志・羽鳥樹里・若松晴美・藤井奏子・藤谷さきこ
金リナ・中村佳菜子・千葉まゆみ・柳明姫・水谷充徳・チャンセレイロット・丸山芳彦
斉藤乃章

2017年12月1日～2018年2月13日に会費・ご寄付を下さった

丹下誠司	第24回ﾁﾗﾀ会	堀場秀享	岩見豊子	田中慶子	キム ヒスン
宮本直実	田中節子	髙橋周孝	千葉まゆみ	加藤郁雄	西澤　純
松田明美	北川節子	高柳直正	細川武 細川敦子	柳明姫	日本聖公会会川越ｷﾘｽﾄ協会
唐澤一登	江本　哲也	丸山芳彦			

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費5,000円(学生、未成年者2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

郵便振替口座
支店名　〇一九(ｾﾞﾛｲﾁｷｭｳ)店
口　座　番　号　　当　座
00180-2-25153
口座名義　日韓アジア基金

活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。
賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

＜お問合せ先＞（日本語でお願いします）
〒113-0021　東京都文京区本駒込2-12-13　　アジア文化会館(ＡＢＫ)内
Ｔｅｌ：090-5812-1471(庶務・会計担当 斉藤)　FAX：03-3946-7599（ＡＢＫ）
E-メール：nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP:　http://www.iloveasiafund.com

発行人　特定非営利活動法人　日韓アジア基金・日本　代表理事　江本 哲也